

群馬県立自然史博物館

「北極と南極～いきものたちがめぐる海と陸～」

開催期間：2024年7月20日（土）～2024年12月8日（日）



【企画展の内容・目的】

- 一人一人の暮らしが、海洋環境と海洋資源、海洋生態系に与える影響について考え、いきものたちが暮らす姿を通して、海と陸のつながりへの興味関心を深め、意識向上をはかることを目的とした。
- 展示を通して「知らなかった」から「知りたい」、そして「もっと知りたい」、付帯事業によりさらに「知りたい」を深め、海洋生態系と海洋環境、地球規模の海洋循環について正しく知り、自然環境保全を自らの課題としてとらえ、考え、行動し、行動が継続するような、一人一人の記憶に残る内容を提供することを目標とした。
- 一人一人が新たな世界への扉を開き、心豊かに暮らせるコンテンツの提供を目標とした。

1. 企画展示の内容

■開催期間：2024 年 7 月 20 日（土）～2024 年 12 月 8 日（日）

■開催場所：群馬県立自然史博物館 企画展示室

■入場者数：102,007 人



群馬県立自然史博物館 外観



企画展会場 入口



企画展示室内を地球に見立て、展示室内を円形に設計し、両極の両極に北極と南極を配置し、それらがすべてつながっていることを感じられるような設計とした。展示室にアプローチする回廊部分では、北極と南極の基礎知識をシンプルに解説する仕様とした。

北極が大陸に囲まれた海、南極が海に囲まれた大陸であることを知り、さらにそれぞれの自然環境条件の違いについてシンプルに学ぶことができる空間とした。防寒具を着たマネキンと記念撮影を行い、これから見学者自らが北極と南極の旅にでかける雰囲気を出した。

北極と南極の地質学的ななりたちを紹介し、それぞれのなりたちについて実物標本および映像を用いたコーナーをつくることで、それぞれの相違について学ぶことができる空間となった。また、はやくから北極域にはヒトが暮らしていることについて、人類史にも触れ、海洋生物の狩猟や漁労を生活の基盤とした極寒地における人々の暮らしについて理解を深められるよう実物資料ベースで展開した。



シーズン1は、北極が白夜の設定とした。豊かな食物を求めてやってくる動物たちを剥製や映像を用いて紹介するとともに、原寸大のシロナガスクジラとクロミンククジラ・バナー（所蔵：日本鯨類研究所）を壁面に配し、映像では体感できない海洋生物の大きさを体感する空間を設定した。海の暮らしに適応したホッキョクグマの生態と身体的特徴について、ハズオン（頭骨3Dモデル、毛皮）、顕微鏡（毛の観察）、剥製、映像を配した。ホッキョクグマが生きていくためにはアザラシ等を食物として得る必要があるため、ホッキョクグマに狙われるアザラシになった気持ちになる体験型展示も展開した。捕食者、被捕食者の両立場を1つの展示の中で体感する空間とすることで、海洋生態系の一端を体感することができる空間となった。



豊かな海が豊かな生態系を育むことを、シーズン1では渡り鳥とその生態系について剥製や映像を多用して紹介した。シーズン2（南極の白夜）では、南極のプランクトンのプレパラートや封入標本（所蔵：国立極地研究所）、映像等を展示することで、南極の豊かな海を支えるプランクトンの生態系とその他捕食者の関係を紹介した。実物のプランクトン標本を見学者が自ら顕微鏡等で観察することで、海洋生態系における食物網について考えるきっかけの場となった。



大型スクリーンにおいて「宗谷」に関するインタビュー映像やエンジンの解説映像（所蔵：船の科学館）を放映し、テーブルと椅子を配した「STUDY ROOM」を設置した。「知りたい」方々むけに数多くの閲覧用資料（提供：国立極地研究所、船の科学館、ミサワホーム株式会社、一般社団法人大日本水産会）や告知、自ら最新情報を探索できる端末 Geo-Scope（所蔵：日本科学未来館）を配した。ゆっくりと探索する空間を創出することで、北極と南極の現状について理解を深める場となった。また、オーロラ鑑賞ができるよう「イグルードーム」を制作設置、球面スクリーンに南極のオーロラを投影した。

展示室の出口付近には、見学者が展示について感じた思い等を自由に描き、発信するメッセージボードも設置した。本メッセージボードには、見学者が感じた率直な感覚が描かれており、北極や南極への想い、動物や剥製の感想、海洋生態系への理解など様々な波及効果が認められた。

【来館者の声】

- 今回の企画展は特にメッセージ性の高さに感動しました。一度で終わりにしてしまうのは非常にもったいない。私は必ず複数回観にきます。図録も買います。情報を反芻し知人も連れてきます。アザラシが好きといていたので喜ぶと思います。
- 今回の企画展を見ての感想としては、今の海のじったいについて詳しく知れた。
- 海水温め場により、生態系に大きなダメージを与えるという記事を読んで地球温暖化を防ぐために何か行動を起こさなければならないなと思いました。
- 北極と南極を比較して説明を見ることで、画像の特徴がよくわかりました。

2. 関連事業の内容

■ワークショップ「食を通じて考える、地球の未来 シーズン1」

【開催日時】2024年7月21日（日）

位置①9:45～10:45、②11:00～12:00

③13:00～14:00、④14:15～15:15

【開催場所】群馬県立自然史博物館 実験室

【講師】早武忠利（一般社団法人大日本水産会魚食普及推進センター）

【参加者数】113人

【実施内容・目的】

- 海洋環境が酸性化するとはどういうことか、巻貝をみがきながら考える内容とした
- 真珠層をもつ巻貝を、耐水性紙でみがくのと、酢につけた後にみがくことを比較することで、海洋の酸性化が貝類に与える影響を考えた



真珠層をもつ貝殻は、みがいていくと真珠層が露出してくる。貝殻をみがいて真珠層を出す作業がどれほど大変で時間がかかるのかを実感し、それとともに貝類の生存戦略についても学んだ。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



酸性化を疑似体験するため貝殻を酢に一定時間つける。その結果、貝殻の表面はもろくなり、表面をみがいて真珠層をだす作業が短縮された。海洋の酸性化が貝類の生態に与える影響について学んだ。



海洋の酸性化の要因となっている二酸化炭素等について説明を受け、排出カーボンを減らすための地産地消や、知らない食材であってもチャレンジしてみると意外とおいしいかもといった暮らしを豊かにするヒントのレクチャーを受けた。少し視点を変えることで、豊かで持続可能な食卓をつくっていくことができることを学んだ。

【来館者の声】

- 自分で貝を削る体験も貴重でしたし、自分の体験として酢につけたものと、そうでないものの差を体験できたのも良かったです。
- 今回の北極・南極展にも繋がる内容であったのでワークショップ後の企画展も楽しめました。
- 説明もゆっくりしているので、聞きやすい。イベントをかいさいした理由なども教えてくれ、海の自然界の問題も分かりやすく説明してくれた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。

■講演会「バイオロギングで探る極地の海鳥の生活：ペンギン、ウミガラスと温暖化の影響」

【開催日時】2024年7月28日（日）13:30～15:30

【開催場所】群馬県立自然史博物館 学習室

【講師】高橋晃周（国立極地研究所）

【参加者数】54人

【実施内容・目的】

- 海鳥の生態を学ぶことで、豊かな海洋環境の重要性を学ぶことを目的とした
- 海鳥のバイオロギング研究についてご講演いただき、海洋環境の変化と地球温暖化の影響について学んだ



北極と南極の海鳥を研究することで、海鳥の生態を理解することができ、また、海鳥の食性を調べることで海洋の状況を把握することができることを学んだ。



講演の合間に、実際に使用しているロガー等の調査道具を観察し、具体的にどの機種がどのような機能を持っているのかなどを深く学ぶことができた。また、コウテイペンギンの翼を間近で観察することもでき、生態とあわせてペンギンへの理解が深まった。



参加者の質疑応答も活発で、講演後も質問に多くの参加者が並んだ。対象を小学校5年生以上としていたが、興味関心の高い小学校低学年の参加者もあり、ペンギンやウミガラスを通して、北極と南極の海洋生態系について学ぶことができた。

【来館者の声】

- 遠くてあまり知らない南極や北極について知ることができました。温暖化の影きょうがよく分かる情報がたくさんあって分かりやすかったです。
- 2018～2019 にふ化数が大幅に減少している数値をみせていただき、温暖化に対する動物への影響が確実に出ていると知ることができました。
- ペンギンの海の中での活動がわかり おもしろかった。氷のとけ方で海鳥の数が増減する、氷らないとプランクトンが増えない、そういう事もあるんだと思った。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■講演会「南極フィールド調査から探る南極氷床の融解メカニズムと海水準上昇」

【開催日時】2024年9月1日（日）13:30～15:30

【開催場所】群馬県立自然史博物館 学習室

【講師】菅沼悠介（国立極地研究所）

【参加者数】47人

【実施内容・目的】

- 南極大陸のなりたちと、過去における融解メカニズムを明らかにすることで、今後の地球環境はどうなっていくのかを学ぶことを目的とした
- 地質的研究、他分野の研究者と共同研究しながら地球環境の未来予測をしていく最先端研究について学んだ



南極大陸のなりたちと、南極の地層に残る過去の記録を最先端の技術を用いながら読み解いていくことの重要性について学んだ。過去におきた海面上昇の現象の地質的な背景についても学んだ。



国際的なチームを形成し、研究を進めることでひとつずつ現状を解き明かし、未来を予測していくことの重要性について学んだ。



参加者の質疑応答も活発で、さらに理解を深めていた。また、終了後も質問に並ぶ参加者が多かった。最先端の研究に触れ、さらに刺激を受けた参加者も多かった。

【来館者の声】

- 極地についてはまだまだわからないことが多いことを知りました。研究者の話は面白いです。
- 海面上昇の原因がよくわかりました。深層水の研究が進むことを期待しています。もっとこのような身近な事を研究発表していただきたい。
- 今までいくつも聞いてきた自然史講座の中でも、最も興味深い内容のひとつでした。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■講演会「南極クラス」

【開催日時】2024年9月8日（日）

10:30～11:30, 13:30～14:30

【開催場所】群馬県立自然史博物館 学習室

【講師】熊倉聡泰（ミサワホーム総合研究所研究員、第64次南極観測隊員）

【参加者数】 午前：50人、午後48人 計98人

【実施内容・目的】

- 南極観測の歴史、南極までの道のり、南極の自然環境、観測の重要性について学ぶことを目的とした。シーズン1は南極の極夜をテーマとした。
- 第64次南極地域観測隊越冬隊員からのメッセージを通して、夢をかなえること、一人ではなしえないことでも協力することにより乗り越えられることを学んだ



南極の越冬調査の状況、仕事の内容、生活の様子を学び、継続した地球観測の重要性、地球温暖化と海洋環境への影響についても学んだ。

【来館者の声】

○私たちの知らない世界で命がけで観測や研究をしている方々の様子を知ることができて感動するばかりでした。知らない世界を知ることがこんなにも素晴らしいとこどもも感じてくれていたと思います。貴重なお話をありがとうございました。

○ペンギンのエピソードがよかった ・アザラシの赤ちゃんの声がおじさんの声でおもしろかった ・色々な分野のエキスパートが集まってチームワークの大切さや志の高さを感じた

○最後のメッセージ動画、胸にささりました。ありがとうございました！

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■ワークショップ「ボードゲームで考えよう！～研究者と語る。北極の今とこれから～」

【開催日時】2024年9月29日（日）13:30～15:30

【開催場所】群馬県立自然史博物館 実験室

【講師】渡邊英嗣（JAMSTEC）

毛利亮子（国立極地研究所北極観測センター）

【参加者数】21人

【実施内容・目的】

- 北極の自然環境、北極の調査研究について学び、急速に変化する北極域の環境と保全対策について学ぶことを目的とした
- 北極ボードゲームを通じて、ひとりひとりが北極に暮らす、関わるステークホルダーとしての立場を参加者がそれぞれ体験することで、環境保全の合意形成を行うプロセスを体感した



北極ボードゲームを実施する前に、北極の自然環境、調査研究の最先端について学び、北極域が抱える多くの課題についても学んだ。



参加者はそれぞれ小班にわかれ、講師に加え、事前に研修を受けた当館職員がファシリテーターとして、ゲームを進行した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



ゲームが進むにつれて、変化する北極の環境に対して、開発者、漁業者、研究者、先住民、外交官等の役となった参加者が様々な対策を講じる。予算も設定されており、どの対策を講じるかは役になりきった参加者が意見を出し合いながら決めていく。ゲームの難易度は高く、終了後、北極域の環境を維持できた班はゼロだった。

【来館者の声】

- とても楽しく考える時間となりました。いろいろな立場があり、視野を広くもつことが大事だと思いました。
- 知らない職業とかんきょうのこと、今、おこっていることについて新しい発見と自分の意見がもてとてもよかったのしかったです。話し合うことで分かることもたくさんあった。もっと知りたい。
- ボードゲームが終わってはじめて、”こんなことになってしまった””もっとこうしておけば”という意見がありました。実際はやり直しがきかないということを心に留めて、これから生活していきたいと思います。
- 環境、文化、経済全てを平等に考えないと結果、全てを失うことになるんだと痛感しました。とても楽しませていただきました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■ワークショップ「ペンギン調査を体験しよう」

【開催日時】2024年10月27日（日）13:30～15:30

【開催場所】群馬県立自然史博物館 実験室

【講師】伊藤元裕（東洋大学）

【参加者数】22人

【実施内容・目的】

- 北極や南極での海鳥の調査研究を通して、地球の海洋環境について学んだ。
- 南極で行われているペンギン調査の疑似体験をすることで、ペンギンの生態と海洋環境、食物網について学び、継続した基礎調査の重要性を体感した



北極、南極における海鳥調査と、海鳥の調査を通してわかる海洋環境の状況等について学んだ。



生態調査の方法や、調査で使用する機材等、実際に調査で使われていた機器について説明を受け、多様なデータを調査で得ていることを学んだ。技術の進歩とともに、海中における鳥類の行動についてもわかるようになってきた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



ペンギンコロニーの生息頭数カウント調査を疑似体験した。個体の識別を正しく行うことが難しく、それぞれなかなか正解にたどり着かなかった。こうした地道な調査とデータの蓄積により、南極大陸と周辺の海洋環境の変化とペンギンの生息数の動向について把握できるようになることを学んだ。

【来館者の声】

○7/28 の高橋先生の講演をお聞きしての参加だったので、知識に厚みと広がりが出ました。あのとき理解しきれなかったことも今日解決したりと、とても楽しませていただきました。ありがとうございました。

○ペンギンについてだけでなく、いろいろなことについて説明してもらい。とても良かったです。くわしく説明してもらい、初めて知ったこともたくさんありました、ペンギンを数えることの大変さを実感できました。

○研究は普段は結果しか聞いたことがありませんでしたが、その裏の話も聞けてとても楽しかったです。

■講演会「南極クラス」

【開催日時】2024年11月10日（日）

10:30～11:30、13:30～15:30

【開催場所】群馬県立自然史博物館 学習室

【講師】熊倉聡泰（ミサワホーム総合研究所研究員、第64次南極観測隊員）

【参加者数】 午前・38人、午後・46人、計84人

【実施内容・目的】

- 南極観測の歴史、南極までの道のり、南極の自然環境、観測の重要性について学ぶことを目的とした。シーズン2は南極の白夜をテーマとした。
- 第64次南極地域観測隊越冬隊員からのメッセージを通して、チャレンジしつづければ夢はかなうことに、希望をもった。



ブリザード時や、南極に暮らす多様な動物等の映像、南極の環境を理解するための様々な実験等の映像を通して南極の自然環境の厳しさを学び、観測の重要性、施設のメンテナンス等の重要性を学んだ。

【来館者の声】

- オープニングセレモニーにも参加させて頂き、すっかり南極について興味をたくさん持ち、本や番組をたくさん見えています。実際の映そうや話、大人も子どもも学びになりました。メッセージも心にしみました。
- 沢山のお話をありがとうございました。子ども達のこれからも夢を沢山持ち あきらめず 色々な経験をする事が大切だと感じました。
- 来て本当によかったです。また仕事がんばります。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■講演会「南極観測隊と極域の地衣類」

【開催日時】2024年11月17日（日）13:30～15:30

【開催場所】群馬県立自然史博物館 学習室

【講師】田留 健介（東京農業大学）

【参加者数】 30人

【実施内容・目的】

- 南極大陸の内陸域調査について学ぶことを目的とした。
- 現在の生物分布と大陸移動の関係について学び、地球上の自然環境は常に変動していることを学んだ。



南極大陸の内陸域調査について学んだ。海鳥の糞などが陸上の地衣類、蘚苔類等の栄養源になっていることについても学んだ。現在の生物分布と大陸移動の関係についても学び、地球上の自然環境が変動し続けていることも学んだ。

【来館者の声】

- まったく知りえない世界のお話で、なにをきいても、ほんと楽しく、興味深く、おもしろかったです。専門的知識がなくても十分わかりやすく、たのしかったです。家に帰っても、もっと調べてみたくなりました。
- 地衣類が両極、世界中で同種が見られるという話や大陸移動の話を受け、興味深いと感じた。
- 来て本当によかったです。また仕事がんばります。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■ワークショップ「食を通じて考える、地球の未来 シーズン2」

【開催日時】2024年12月8日（日）

9:45~10:30、11:00~11:45、13:30~15:00

【開催場所】群馬県立自然史博物館 実験室

【講師】早武 忠利（一般社団法人 大日本水産会 魚食普及推進センター）

【参加者数】1・27人、2・26人、3・42、計95人

【実施内容・目的】

- エビ、イカの解剖を通して、生き物の生態や生息する海洋環境について学ぶことを目的とした。
- エビ、イカの体のつくりを理解することで、極限まで廃棄部位を減らし、おいしく食べきる技術を習得することを目的とした。



午前の部2回は、エビの解剖を45分間コースで行った。

エビの体のつくりを参加者がどうとらえているかを確認した後、エビの体のつくりについて、実物を前に、ひとつひとつ学んだ。それぞれの部位がどうしてそのような構造になっているのかを学ぶことで、その生物の生態について学び、海の中での暮らし方についても理解を深めることができた。



実際に解剖をしてみると、その大半が可食部であることに気づくことができた。これまで捨ててしまっていた部位も美味しく食べられることも学んだ。



イカの解剖は、1つ1つの手順を丁寧にしながら、体のつくりを学んだ。体のつくりを通して生態について学び、海洋資源の持続可能な利用についても学んだ。イカにまるごと触れるのは初めての参加者が多く、体のつくりを学び、調理の仕方学ぶことで、イカをロスなくまるごと食べきる知恵と技術を体得した。

【来館者の声】

- 自分が何を食べているのかを知ることはとても大事だなと改めて感じた。おもしろかった。
- エビの解剖で体の仕組みを知ることができ、今まで捨てていた部分も食べれることを知れたので良かった。
- 今まで知らなかったことを知れて、食や海の大切さを感じました。ありがとうございました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。

■サイエンス・サタデー「『北極に暮らす生き物たち』のモビールをつくろう」

【開催日時】2024年9月7日（土）、14日（土）、21日（土）、28日（土）
13:30～14:30

【開催場所】群馬県立自然史博物館 実験室

【参加者数】7日・40人、14日・22人、21日・12人、28日・20人、計94人

【実施内容・目的】

- 北極に暮らす生き物たちについて学び、モビールをつくることで、食物網のバランスを体感する
- モビール：<https://www.gmnh.pref.gunma.jp/educations/arctic/>



北極に暮らす生き物について学んだ後、生き物の食物網を模したモビールづくりを行った。モビールをバランスよく成立させるためにはどのようにバランスをとったら良いかを考えながら、生き物同士の関係について考えながら、制作を行った。制作体験を通して、生態系のバランスの重要性について体感した。

【来館者の声】

- バランスとるのがむずかしかったです。大人も頭を使う作業で楽しめました。
- はじめて参加しましたが家族みんなで1つのものを作りあげることが楽しかったです。
- すごくよかったので、家でもやりたいです。ありがとうございました。また来ます。

■サイエンス・サタデー「南極のモビールをつくろう」

【開催日時】2024年11月2日（土）、9日（土）、16日（土）、23（土）
30日（土）13:30~14:15

【開催場所】群馬県立自然史博物館 実験室

【参加者数】2日・29人、9日・28人、16日・22人、
23日・49人、30日・36人、計174人

【実施内容・目的】

- 南極に暮らす生き物たちについて学び、モビールをつくることで、食物網のバランスを体感する

- モビール：

<https://www.gmnh.pref.gunma.jp/educations/antarctica/>



南極に暮らす生き物について学んだ後、生き物の食物網を模したモビールづくりを行った。南極の食物網階層が北極と異なることも学び、モビールをバランスよく成立させるためにはどのようにバランスをとったら良いかを考えながら、制作体験を通して、生態系のバランスの重要性について体感した。

【来館者の声】

- 海のどうぶつたちを勉強をしながらかわいいモビール作りむずかしかったけれどすごくたのしかったです。
- 工作いがいにも海（北きょく、南きょく）についてたくさんしれて勉強になった。
- モビール作り前の南極についてのお話が、とても面白かったです。今回は南極でしたが、ぜひ北極も知りたいと思いました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■出前講座「北極に暮らす生き物たちのモビールづくり」

【開催日時】2024年9月21日（土）

①10:30～11:30 ②13:00～14:00 ③14:30～15:30

【開催場所】イオンモール太田

【参加者数】43人

【実施内容・目的】

- 北極に暮らす生き物たちについて学び、モビールをつくることで、食物網のバランスを体感する

- モビール：

<https://www.gmnh.pref.gunma.jp/educations/arctic/>

北極に暮らす生き物について学んだ後に、北極の生き物の食物網をモチーフにしたモビールづくりを行った。モビールづくりでは、北極に暮らす生き物同士の“食べる・食べられる”関係や考えながら北極の生き物を結びつけた。モビールの仕上げる場面では、親子で工夫しながらモビール全体のバランスをとった。モビールづくりを通して、北極の生態系のバランスの重要性について考える機会となった。



【来館者の声】

○可愛いイラストと丁寧な指導であっという間に楽しい時間を過ごしました。

○はさみやのりを使って子供と楽しく作品が出来てよかったです。

○むずかしかったけど楽しかったです。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■出前講座「南極に暮らす生き物たちのモビールづくり」

【開催日時】2024年11月1日（金）9:30～12:00

【開催場所】沼田市立白沢中学校

【参加者数】8人

【実施内容・目的】

- 南極に暮らす生き物たちについて学び、モビールをつくることで、食物網のバランスを体感する
- モビール：
<https://www.gmnh.pref.gunma.jp/educations/antarctica/>

沼田市立白沢中学校文化祭の中で実施された体験学習の一つとして、「南極に暮らす生き物たちのモビールづくり」を行った。当日は、南極に暮らす生き物について学んだ後に、南極の生き物の食物網をモチーフにしたモビールづくりを行った。南極に暮らす生き物同士の“食べる・食べられる”関係や考えながらモビールを製作し、この活動を通して南極の生態系のバランスの重要性について考えた。



【来館者の声】

- 南極の生き物の食物連鎖を考えながら作りました。切るのが大変でしたが完成した時の達成感がすごかったです。
- 南極について自分の知らないことを知ることができてすごく興味をもちました。
- できあがったモビールを家に飾って、もっと南極や北極について調べて同級生や家族に話してみたいです。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校の博物館見学

【開催日時】2024年11月23日（土・祝）13:00～15:00

【開催場所】TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校

【参加者数】40人

【実施内容・目的】

- TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校が授業の一環で群馬県立自然史博物館を見学した際、「南極に暮らす生き物たちのモビール」を配布し、後日モビールを製作した。
- モビール：
<https://www.gmnh.pref.gunma.jp/educations/antarctica/>

【事業全体のまとめ】

企画展「北極と南極～いきものたちがめぐる海と陸～」と関連普及事業について、本サポートのご支援をいただけたことで、北極と南極の海洋生態系 3D 模型、「北極と南極～いきものたちがつなぐ海と陸～」動画を制作委託し、海・川・陸の循環による地球環境について多くの来館者に伝えることができた。また企画展を深化する多様な教育普及事業を実施することが可能となり、北極と南極の自然環境を身近なこととしてとらえる誘発を行うことができた。

来館者のアンケートの回答では、シーズン1：「今回の企画展は特にメッセージ性の高さに感動しました。一度で終わりにしてしまうのは非常にもったいない。私は必ず複数回観にきます。図録も買います。情報を反芻し知人も連れてきます。アザラシが好きとっていたので喜ぶと思います。」「よく考えられた展示であり、とてもわかりやすかったです。南極と北極の比較は、知らない方も多いと思われるため、とてもよかったと思います。」「今回の企画展を見ての感想としては、今の海のじったいについて詳しく知れた。」「自然の内で生きている自分を感じた。」「かわいらしい動物や自然を守る義務があることを改めて感じました。オーロラの展示方法が工夫されていて良かったです。」「北極と南極を比較して説明を見ることで、画像の特徴がよくわかりました。猫のたけしの情報は初耳でかわいかったです。コウテイペンギンの大きさに驚きました。」「イヌイットに触れることができて興味が湧いた。彼らの文化伝統をより深く知りたいと思いました。」「どちらも「極地」でありながらテーマごとに北極と南極を比較する形式で、興味深く学ぶことができました。アザラシの視点を体験できるコーナーでは、食物連鎖を感じることができました。」「よくわからないでいた北極と南極の違いがわかりました。ホッキョクグマに狙われるアザラシの気分になれる穴が最高でした。解説も聞いて、パネルにはない補足なども聞けてとても勉強になりました。season2 も来たいです。」等、楽しい、興味深い等の感想があった。

シーズン2：「海水温め場により、生態系に大きなダメージを与えるという記事を読んで地球温暖化を防ぐために何か行動を起こさなければならないなと思いました。」「環境問題についてしっかり考えるきっかけができました。」「書物や映画などのニュースとは、別の知識を知り大変勉強になりましたね。」「温暖化について改めて考えさせられました。」等、企画展をきっかけに海洋環境、地球温暖化について考えるようになった等の感想が寄せられた。

教育普及事業では、多様な立場の視点を体験することで、「環境、文化、経済全てを平等に考えないと結果、全てを失うことになるんだと痛感しました」等、地球にヒトが暮らし続けるために、わたしたちはどうしたら良いのか等の気づきもあり、「すっかり南極について興味をたくさん持ち、本や番組をたくさん見ています」、「もっと調べてみたくなった」等、日常の暮らしの中に本企画の芽ぶきがあったことが伺えた。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 国立極地研究所	動画監修、教示、図録執筆、資料・画像・動画借用、講演会、ワークショップ
2. 東京海洋大学・マリンサイエンスミュージアム	教示、資料借用

3. 船の科学館	教示、資料・動画借用
4. (一財) 日本鯨類研究所	教示、資料借用
5. 国立科学博物館	教示、図録執筆
6. 国立民族学博物館	教示、図録執筆
7. 群馬大学	教示、パネル原稿執筆、資料借用
8. 株式会社ミサワホーム総合研究所	資料提供、資料借用、教示、講演会
9. 日本科学未来館	Geo-scope 借用
10. 名古屋市科学館	画像・動画借用
11. 名古屋港水族館	取材、教示、画像借用
12. 名古屋海洋博物館	取材、教示、画像借用
13. 一般社団法人 大日本水産会 魚食普及推進センター	資料提供、資料借用、ワークショップ

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 読売新聞	極寒に対応2層の毛、2024.7.12
2. 上毛新聞	極地の動物 剥製ずらり、2024.7.21
3. 上毛新聞	「北極と南極」入場 10 万人
4.	
5.	

以上